

学内博物館デジタルミュージアムにおける「語り」のデジタルアーカイブとその記録

谷 里佐*¹

人の「語り」は、民話や言い伝え、証言など、さまざまなものがあり、その人物の思いや記憶、あるいは歴史的背景をも表すものであり、文字が用いられる以前からの情報伝達の手段であった。しかし、その記録に対しては、真正性や正確性に関する指摘も多くなされてきた。

これらの指摘の多くは、人の「語り」の口述筆記等、文字の記録に対するものといえるが、それらは、「語り」を音声や映像等で記録できるデジタルアーカイブによって、払拭できる可能性がある。

本稿では、岐阜女子大学の学内博物館デジタルミュージアムで、開館時より取り組んでいる「語り」のデジタルアーカイブについて紹介する。

■「語り」の音声記録 ～方言～

開館当時に取り組んだ「河合村の方言」では、河合村在住の方の「語り」を音声記録した。普段の「語り」を記録するため、仲間との会話の様子を記録した。音声により、方言のイントネーションや雰囲気を与えている。

■「語り」の映像記録 ～民話～

民話は、人々の生活の中から生まれ、語り継がれてきたものであり、その歴史的背景からも「語り」の重要性が感じられる。

そこで、「飛騨の民話」では、民話の語り部として活躍されていた種蔵泰一氏の「語り」を記録した。身振り手振りも含めた種蔵氏の「語り」は、民話の新たな伝承という側面も持つ。

■「語り」の総合的な記録 ～オーラルヒストリー～

オーラルヒストリーとは、口述歴史（資料）であり、人の経験や記憶等を「語り」により記録するものである。

オーラルヒストリーについては、木田宏氏（元文部事務次官）、和田正人氏（白川郷和田家館長）をはじめとし、数々の記録を行っている。

オーラルヒストリーは、従来からの文字記録も“内容理解”には必要であり、映像記録は、「語り」の様子、微妙なニュアンス等の“感情把握”の特性が見出せる。デジタルアーカイブにより、それらの必要要素(特性)を総合的に構成し、提示することができる。



図1 河合村の方言

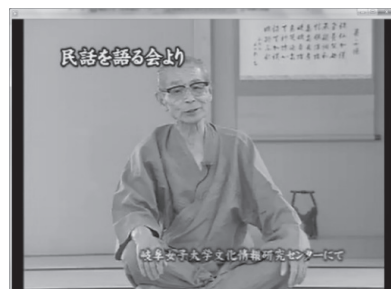


図2 飛騨の民話

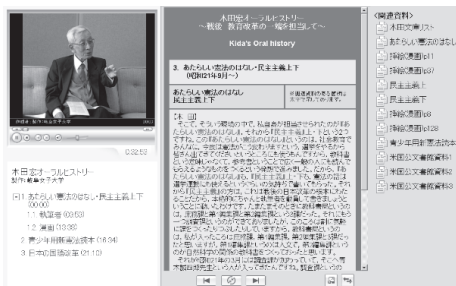


図3 木田宏オーラルヒストリー



図4 和田家オーラルヒストリー

*1 谷 里佐 岐阜女子大学